



←冬枯れの木々のあいだに、ここだけ緑が残り、真っ赤な実がぶら下がっていた。クコの実だ。冬日をあびて輝いていた。

→1月1日は、舟を2艘出した。対岸の柴又帝釈天に初詣の客が多かった。

二〇一八年はつつがなく明けた。少し風が強い日はあったが、雪も雨も心配なかった。

「今年はどうな年になるんだろうね」  
一月一日、舟頭さんと交わした最初の言葉がこれだった。

ありきたりといえば、ありきたりだが、この言葉には複線があった。まずひとつは、年を越した大相撲の貴乃花親方の理事解任問題があった。ふたつめは、北朝鮮の核問題が尾を引いていた。内外に問題が年をまたいでいた。

昨年十二月にアメリカは国防授權法が成立した。この法には米台間の軍事交流・協力の強化がうたわれている。

具体的にどういうことかというところ、米海軍の台湾寄港がトランプ政権下で現実のものになるうとしている。

台湾統一を願っている中国にとって、は許し難いことなのだ。トランプ政権は対北朝鮮でも問題を抱えていて、中東イスラエルでも問題を抱えているうえに、中国にもちよっかいを出した。まさに、いつ地雷を踏んでもおかしくない状態のまま新しい年を迎えた。

## 今週のクマ

→2018年クマは江戸川の堤防の上から新しい年の東京方面をじっと見つめていた。



→ずいぶん前からこのカラスを撮ろうとねらっているが、いまだに白い羽を広げて飛ぶ姿は撮影できない。羽を閉じた状態ではわずかに白が見えるだけだ。今年もねらい続けることになる。



トランプという男、どうしようもない問題児だ。

次ぎに貴乃花問題だが、ことの始まりは日馬富士の貴ノ岩暴行事件だ。それがいつの間にか貴乃花親方の問題にすりかわった。四日に開かれた臨時評議委員会で貴乃花の理事解任が決まった。

相撲協会も評議員会もこれで問題が終わったようにいつているが、はたしてこれでいいのだろうか？

今年の十月二十五日の夜、巡業中の鳥取市でなにがあつて貴ノ岩がケガをしたのか、協会はそのことを調べようとしたので当時巡業部長だった貴乃花親方に報告させようとしている。

巡業部長とはいえ貴乃花親方は事件現場にはいなかった。したがって分からないまま自分の部屋の弟子がケガをさせられたから、これはもう相撲界だけで解決できる問題ではないと判断して警察に届けでたのだ。

横綱白鵬がいて同じく横綱の鶴龍がいて日馬富士がいる場所で弟子の貴ノ岩がケガをした。ありえない状況下で起こった事件だ。相撲協会も評議委員会もここで何があったのか分かったのだろうか。